令和6年度 第4回 二宮町子ども・子育て会議 会議録

日 時 令和7年2月26日(水) 午後2時30分～午後4時
場 所 二宮町町民センター3Bクラブ室
出席者 相馬委員(会長)、境野委員(副会長)、上野委員、加藤委員、成川委員、
掬川委員、飯塚委員、渡辺委員、石井委員、一石委員
(欠席/三好委員、水島委員)
事務局 神保子育て・健康担当参事兼子育て・健康課長、野田子育て支援担当課長、
鈕持子育て支援班長、阿山育成相談班長
傍聴者 1名

1. 開会

事務局：令和6年度第4回二宮町子ども・子育て会議を開会する。本日はご多忙のところ
ご出席賜り感謝する。次第に従い進めさせていただく。

2. あいさつ

会 長：本日は第4回会議である。こども計画を策定する最後の会議である。子育て・健
康課においては、忙しい中、計画策定にご尽力いただき、感謝する。また、本日
お集まりの委員の皆様にも感謝をしながら、最終的なまとめとして、ご意見を伺
いながら、仕上げるという意識を持って、会議を進行していきたいと考えている。
ご協力のほどよろしく願います。

事務局：(会議の録音と議事録の作成について)
(会議の公開に関する説明及び傍聴者の確認)
(資料の確認)

3. 議題

事務局：これからの進行については、会長に願います。

(1) 二宮町こども計画(案)に対する意見募集の実施結果について

会 長：議題(1)こども計画の意見募集の実施結果について、事務局よりご説明願
います。

事務局：(資料1について説明)

会 長：議題(1)について、ご意見、ご質問等があれば願います。

委 員：意見の提出人数が13人で、こども用のホームページから4件なので、こどもの意
見が4人ということかと思ったが、その13人の年齢構成や、こども4人について
も、小学生なのか中学生なのかわかっているのか。

事務局：年齢までは、アンケートに回答する際に求めているため、わからない。こども
用のホームページからの回答も、おそらく小学生も中学生もいると思う。文章を
読んで、小学生なのか中学生なのか、類推は出来る。

委 員：この意見に対する町の考え方はホームページで共有するが、意見を出した個人へ

の返信はするのか。

事務局：町のホームページにはこれからお示しする予定である。ご意見をいただいた個人の方にはメール等でのフィードバックは予定していない。ご意見をもらうときに、いただいた意見は全体でまとめてお返しするというお示しをしている。

委員：それでは、今後まとめてホームページに載せるということで、意見を出した人はホームページにアクセスして、自分の出した意見に対して、どのような考え方があるのか知るとのことか。

事務局：おっしゃる通りである。

委員：もう1点、学校や子育て・健康課だけではなく、生活環境など色んなものに波及したご意見があるが、今後その関係の課との共有、それからこどもの意見は各学校に届けるといった予定はあるのか。

事務局：1番後ろのこどもたちからのイベントでの意見は抜きにして、それぞれ36個の質問について、町の回答としては、主管課にも確認をし、町全体としてこのような答え方でいいのかという確認を取った上での回答になっている。後ろのページについては、教育委員会、教育総務課、教育指導課には共有をしているが、そこから学校へどうするかということについては、それらの課での判断になる。参考程度に渡すことはできると思う。

会長：その他、ご意見、ご質問等はあるか。

委員：こどもたちからこれだけの意見が出てきたというところと、その声を吸い上げる取組をされた町の姿勢が、本当に有難く、素晴らしいと思う。できれば、勇気を出して意見を出してくれたこどもたちの勇気が挫かれない様な大人の対応をしたいと感じる。ここで吸い上げたことが形骸的に終わってしまうと、こどもたちの勇気が途絶えてしまうのではないかと不安な点がある。関係各所の今後の対応の検討内容によるが、こどもの意見を大人の常識の範囲の中で判断してしまうことがあるのではないかとと思う。こどもの休み時間を長くして欲しいという意見1つを取っても、ある学校が休み時間を長くしたら、学習効率が上がったという事例も聞いたことがあり、拙い意見と思えるかもしれないが、その1つ1つを大事に受け取った方がいいのではないかとと思う。こどもの勇気を挫かない大人の対応というのが、どのようなものなのか、皆さんと考えていきたいと思う。

委員：私も、こどもの出した声をどこまで届けるのかが大事だと思う。こどもは、私達もそうだが、自分の意見が、叶う叶わないではなく、どこまで届いているか、どこまで聞いてもらっているかが大事だと思う。このように発しやすい場を作っていただき、自由に出てきた意見を軽んじないような形にすることが、こどもの声を聞くとか、こどもの人権を大事にするというところに繋がってくると思うし、その姿勢を私たちが覚悟して持つということが大事だと思う。

委員：関心を持っている方がこれだけ意見を出してくれたことが良かったと思う。窓口4件、電子メール2件、電子申請3件、こどもホームページ4件ということであるが、意見のNo.1～36までのどれが、どこから申請されているのかや、申請した方の年齢や背景がわかるとより参考にしやすいのではないかと。例えば、この年代はこのようなことを考えているなどがわかると、より具体的にこの意見を見ることが出来るのではないかとと思うが、いかがか。

事務局：年齢については、先ほども申し上げたが、回答の属性に含まれていないので、載

せることは難しい。おそらく何歳くらいの人ではないかや小学生のお子さんがいる保護者ではないかという類推はできる。

会 長：性別もわからないのか。

事務局：町の中でルールがあり、どこの課も同じルールでやっている。そのルールとしては、在住在勤の人で、名前や住所、連絡先をいただくことでやっている。あとは全体的に個別では返さないというルールの中でやっている。根本的にどこまで修正するかについては、今後そのようなご意見をいただいたということで、担当課に話をしていくが、今はそのようなルールの中でやっている。

委 員：先ほどお話にあった、こどもから挙がってきた意見を、大切に扱うというところで、例えばこの意見がみんなに伝わったとか、自分の意見がどこまで届いたのかが視覚的にわかるようなものがあると、小中学生が自分の出した意見がここまで通ったとわかるのではないかと思う。

事務局：届けるのは簡単だが、実効性は難しいものが多い。こどもたちにも、どのような年代の子にも伝わりやすいように、関係するところへ届けますという書き方はしている。これを具体的に〇〇課にとする方が良いということか。

委 員：そこまでじゃなく、今日も議事録を録っているが、委員会で話が出たや、町の役場の人もちゃんと読みましたというような形である。〇〇課の誰が読んだかまでではない。

事務局：事務局側としては、その辺りを踏まえて、町の考え方として共有しましたということを入れたつもりだが、少し弱い感じか。

委 員：これが不足ということではないが、例えば町長が読みましたなどがわかると、町長が読んでくれたんだと思うのではないか。

事務局：当然町長も読んでいるし、むしろこの意見をもらったイベントにも町長がいた。「町長も見ました」と書くようにする。こどもも喜ぶと思う。

委 員：これはホームページに掲載されるのか。そうするとこどもが意見を出していたとしても、こどももホームページから探しにいかないとわからないのか。

事務局：おっしゃる通りである。一定期間はトップページの新着情報には入るが、探しには行かないといけない。

委 員：せっかく学校からお願いしてもらったので、回答したということも同じような流れで報告すると、意見した子は見てみようと思うのではないか。こどもが自分の力で見に行くというのは難しいのではないか。

事務局：学校の協力を得るのもなかなか難しい。生徒世帯数で千何百枚を学校を經由して回してもらわないといけないので、意見をいただく時はできたが、それを見てくださいますともう1度やるのはハードルが高いと思う。教育委員会とも話をしてみる。例えばタブレット端末を利用するか、学校の掲示板に貼ってもらうことくらいではどうか。

副会長：こどもたちはタブレットを使えるし、例えば御礼のポスターを学年に1枚ほど貼って、二次元コードを付けておくと気軽に見に行けると思う。

事務局：低学年のこどもでもできるか。

副会長：低学年でも二次元コードを読み込んで、そこから見ることはできる。

委 員：中学校の場合は、クラスルームというところから、色んな情報や今月の予定みたいなものもアクセスできて、保護者と生徒とそれぞれのページがあるので、アク

セスしやすいのではないかと。その辺りに広げていくのがいいのではないかと。

副会長：今、小中学校が1月から欠席連絡を町のLINEを使っている。LINEを使う状況が難しい方もいるが、ほぼ連絡はマチコミを使っている。町のお知らせもLINE登録して来ているが、こどもたちというところとはずれてしまうが、そのようなものが小中学校の保護者には届きやすいのではないかと。

会長：確かに、こどもが家に居て町のホームページを見ることはないかもしれないので、学校を通してもらうのはいいかと思う。

委員：町の考えのところで、34番の5歳の子の子育て真っ最中の方のところは、おっしゃるように不安ですよという受け止め方から始まっていて、自分の意見を聞いてもらったという感覚があるが、一方で27番の子育てサロンに保育士がいると気を遣ってしまうというところは、安全管理上保育士がいるので、子育てサークルを使ってくださいというのは、少し冷たい印象を受ける。それから、12番の給食と医療のところ、再度環境教育をしっかり行って欲しいというところで、ここは学校の中の教育ではないかと思うので、「こども版気候市民会議」とは少し違うのではないかと。例えば、町ではこのようなことをやります。学校の方とも共有していきたいと思います。というような一言があるといいのではないかと。最後に、5番のこどもの貧困のところ、このようなものを使えばできるのではないかと。という意見について、今は町民活動や地域活動としての実施を支援していく考えですと終わっているが、数年前に各小中学校で朝ご飯を食べようというキャンペーンがあり、登録して朝ご飯を食べに行くこどもたちが多くいて、それを主催した団体によると、町民活動の推進補助金を取ってやっていたが、年数が決まっているので、補助金が終わると続けられず終わってしまった。本当に困っている子が楽しみにしていたことが、補助金が終わってしまうと続けられなくなってしまうので、その実績を見ながら、町としてどうするのかというところに発展できるとよりいいのではないかと。

会長：朝ご飯については、いつくらいまでやっていたのか。

委員：昨年まで2年間くらいやっていた。町内の業者がから揚げセットを作ってきて、空いている教室で、朝ご飯キャンペーンの旗がでていて、そこでご飯を食べ、教室に行くということを小中学校でやっていた。

事務局：なかなか難しいところで、そもそもこのパブリックコメントに対しては、こども計画に限らず、町の計画として事務局として作ったものについてどのように思われますかという意見をもらうものであり、具体的に踏み込んで、この制度はこのようにした方がいいという意見は、その計画に対する意見ではないと思う。例えば、こどもの貧困に取り組みますということに対して、内容をもっとこうするべきということは、その内容を実施する中で吸い上げていくべきで、この計画を定める時に、その細かい在り方をこの計画に入れるべきものではなく、その1つ1つにこれについてはこう考えるので、できません、これはやっていきますとそこまでは本来答えられないものだと思う。しかし、その答え方だと冷たすぎてしまうし、町全体の答え方としてはそれではいけないと思い、担当課にも協議した上で、この計画では答えられないので、引き続き検討しますであったり、町の担当課の方ではこのように考えていますという答えはさせていただいている。34番はご本人が本当に困っている部分なので、同調するようなお話をさせていただいた

が、27 番については、事実だけを答えているが、ここに申し訳ございませんと入れるのも違うのではないかと思う。なるべく明瞭簡潔に少し寄り添いつつというのを心掛けてはいる。もう 1 歩、2 歩踏み込んだ答え方があるかもしれないが、こども計画の中での組み込み方としては、この辺りが適切ではないかと思う。これからどうするかについては、それぞれの担当課でいただいた意見を基にということになってくるかと思う。それで、ご理解いただけるかは難しいところだとは分かっている。

委員：5 番の子どもの貧困については、連携して支援していく考えです。という回答でいいと思う。朝ご飯のキャンペーンが無くなってしまったことと相乗して、浮かんだだけである。27 番に関しては、サークルや保育士がいるところではなく、気軽に行ける室内の遊び場という感覚だと思う。叶える叶えられないではなく、そのニュアンスを汲み取るといいのではないか。

事務局：回答者と直接意見交換ができれば、行政としては保育士がいない所で事故が起きてはいけないのでと理解を得ながら話すこともできるが、事実だけを伝えるとこのようになってしまう。

委員：パブコメは勇気があることである。言いたいことはあるが、本名を出すことにやはり辞めようとする人もいる。その中で、ちゃんと名前を出して言っている方々なので、真摯に受け止めて、活かしていけるようにしたい。できるできないではなく、言って良かったと思えるような関係性ができると、町との距離感が良い具合になっていくと思う。

会長：おっしゃる気持ちはわかる。

委員：URL を書いていただいているのは、ありがたい。最初にご意見ありがとうございます。と入れるといい。

会長：他にはいかがか。無いようなので、進行させていただく。

(2) 二宮町こども計画（案）及び概要版について

会長：議題（2）二宮町こども計画（案）及び概要版について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局：（資料 2、資料 3 について、説明）

会長：議題（2）について、ご意見ご質問があればお願いします。

事務局：この「よくわかるガイド」については、こどもたちも読めるような形にしたものである。ざっくりとこども計画の中身が知りたい場合に大人の方にも見ていただきたいもので、こどもたちも含めて全員に行き渡るようなイメージの概要版になっている。

会長：最後になるので、ご意見があればお願いします。

副会長：開いた最初の、町長の「二宮町で育つこどもたちへ」というメッセージはとてもいいと思う。先ほどのアンケートと同じで、それがこども達に届かないと意味がないと思う。どのような届け方があるか考えたが、例えば、どちらをこどもがより見そうかという、「よくわかるガイド」の方だと思うので、こちらにもメッセージを書くといいのではないか。また、大人がこのように考えて計画を作ったというようなメッセージだけでも伝える方法を合わせて考えられるといいのではないか。

事務局：先ほどの話と繋がって、学校に1枚か学年に1枚になるかわからないが、皆さんからもらった意見はここで町が答えているよというような二次元コードを貼ってもらうときに、一緒にこのメッセージを貼るのがいいのではないかな。

事務局：概要版に入れようと思えば入れられそうである。どのようにするか、今すぐ答えることはできないが、より色んな方法で直接子ども達に届くように、いくつか考えていく。

委員：これは各家庭に行き渡るように作るのか。

事務局：行き渡るように作る予定はない。ホームページと各公共施設にご自由にお持ち帰りくださいと置く予定である。

委員：私もこの町長のメッセージがとても刺さったので、子ども達に触れて欲しいと思う。ぜひ上手く活かしてもらいたい。

事務局：何パターンか作ることができるようにお願いしようと思う。

会長：実際の紙はカラーになるのか。

事務局：カラーである。

委員：町長のメッセージで、冒頭に「毎日元気に過ごしていますか。辛いことはありませんか。」とあるが、辛いことがある生活が基本にあるように聞こえてしまい、寂しいので、「楽しいことは何ですか」のような1行を入れるのはどうか。

会長：心配している前提になっているということか。

委員：そのように聞こえてしまう。

事務局：検討する。

委員：表紙の次に町長の私でも、町役場でも構いませんという一文があるが、実際に子どもたちが町役場に直接来て、意見を言うやお願いをする場面が最近あったりするか。例えばこのように書くことで、行ってみようとなる可能性もあり、職員がもし子どもたちが来た時のために対応をイメージしておくといいのではないかな。

事務局：正式決定ではないが、4月以降、ラディアンのどこかで、そのような目安箱なども参考にしながら、何かできないかと考えたりはしている。子ども向けというよりも、誰でも町への提案が送れるものはあるが、子どもたちの意見が言える場というのを、ラディアンなどに常設できればと今考えているところである。

委員：意見のブースについて、先ほどラディアンとおっしゃったが、学校に置くことはできないのか。

副会長：置くことはできるのではないかな。はがきを置くとか、二次元コードを貼りだしておくとかはできると思う。

委員：代表的な施設に置くのもいいのではないかな。それから、町役場にと書いてあるが、どこの課に行けばいいのか書いた方がいいのではないかな。

事務局：何について悩んでいるかにもよるが、子育て・健康課を主体として各課に共有していて、子どもたちの意見をこれから広くもらわないといけないということは、周知をしている。当然子どもたちは自分が困っていることがあっても、どこの課に行けばいいのかわからないので、窓口や職員がどこの課だと言えればいいのではないかなと思っている。冷たい態度を取る職員はいないと思うし、受け取った職員が案内できるのではないかな。

会長：受付はあるか。

事務局：総合受付が今はない。エスカレーターがあるところから来ると、戸籍などの課に

なるので、大体その職員が案内をしている。

委員：授業の一環で、役場への見学はないか。公共施設の見学の中に、役場があれば、行きやすくなるのではないか。

事務局：頻繁ではないがあるのではないか。

副会長：小学校6年生の社会科で、公民の分野で役所がどのような施設かというところを扱っている。それから、小学校3年生の町探検の単元などで、町内の公共施設ということで、役場を訪問している学校はあるかもしれない。

委員：行った記憶がある。

副会長：その時の総合的な学習の時間で、その教科で学んだことを活かし探究的な活動をするという時間があるが、年度の計画で何をやるかにもよる。

事務局：1クラスや1班など数人で来ている様子はある。

委員：この計画の部分で、国から降りてきているものと、町の人声を合わせて、これからの発展に近づいているというところが、集大成だと思う。改めて、この中で二宮町ならではのオリジナルな部分や、力を入れる部分が、二宮町らしいところがどこなのか、改めて教えていただきたい。

事務局：前段として、こども計画と子ども・子育て支援事業計画については、神奈川県との協議は済んでおり、異議はないと回答をもらっている。従って、国や県が求めている内容については網羅されている。町の考え方が反映されているのは、34ページからの基本理念に依拠して、町としては基本目標を3つ設定したというところで、町の今後の在り方を大きく示したところである。特質しているのは（2）の「すべてのこどもが幸せを感じるまちづくり」というところで、町としてこどもの意見を大切にしていきたいというところである。「すべてのこどもが幸せを感じるまちづくり」ということで、町として令和7年度4月から、こどもの権利について町民により知ってもらおうという動きを更に強めたいと思っている。あとは、それぞれの具体的事業については、町が今やっている事業も含めて、町オリジナルで色々考えているところで、ヒアリングなどをした上で進め方を協議した部分であり、オリジナリティは強いところである。

委員：オリジナルの部分は町が力を入れたが、5年度のアンケートで良い結果が出たしたら、町と私たちが意見交換したことが普及したと言えることになると思う。

会長：他にご意見はあるか。

委員：この4月から令和7年度が始まり、このこども計画が始まるが、1番の目玉のような具体的な事業は決まっているか。

事務局：町長の発言にあったように、こどもまんなか元年と捉えて、こども・子育てを全体的にメインとしてやっていきたい。具体的に新たに大きな事業を立ち上げるわけではないが、やはりサポート力、寄り添う部分というところで、なかなか予算に現れない部分であるが、こどもまんなか元年に振った動きになる。

会長：他にご質問はあるか。

事務局：今日机上配布させていただいたが、こども計画の表紙について、このようなイメージで今進めている。吾妻山から見た富士山と菜の花があるというような二宮町の特徴を反映させた形である。実際のこども計画の本編がこのような形になるということで、ご意見はないか。

会長：こども計画の表紙についていかがか。

委員：見やすいと思う。

会長：表紙については、これでお願いします。

委員：よくわかるガイドの3ページ目のこどもの権利について、こどもたちも含めて皆さんが理解できるようにしたいということで、こどもの権利も法律など入れた方がいいのではないか。

事務局：子どもの権利条約に日本としては批准し、それを受けて一昨年4月にこども基本法ができ、その中でこどもの権利が条文でそれぞれ定義されていて、生きる権利、育つ権利、守られる権利などが定義されている。

委員：例えば虐待を受けているこどもが今社会的に多い中で、当たり前なのが当たり前だと知らされていないこどもたちもいる。生きることや守られることは当然のことであるが、それすらも知ることのないこどもたちもいる。そこに支援や気づきが届いていないこともあるし、親御さんも悩み困っているとなった時に、シンプルな方が気づきに繋がるのではないかと。自分ではなくても、こどもの権利が担保されていれば、周りの人が気づいてあげることができて、声を上げやすいし、声をかけて上げやすくなると思う。自分が守られていないかとも思ったら、声を上げていいということを知るきっかけになるので、覚えて欲しい。

事務局：子どもの権利条約や、それを受けて日本が定めているこども基本法の噛み砕き方によって、4つの柱や6つの項目があり、見るたびに違ってくる。委員がおっしゃったように、子どもの権利条約は差別の禁止、生命生存及び発達に対する権利、児童の意見の尊重、児童の最善の利益という4つがあるが、これは見る側が少し変えると違う表現になったり、確定した表現ではないのかもしれない。どちらにしても間違っているわけではないので、もう少し明瞭簡潔に表現したい。このこどもの権利は、途中で解釈を入れたため、ページがいっぱいいっぱいになっているが、このページの中でここが1番大切なので、調節しながら分かり易く入れられるようにしたい。

会長：変わる場合は、委員に報告はあるか。

事務局：メールやPDFを添えるなりして、共有はさせていただく。

委員：どんなことをするの、とあるが、皆さん多岐に渡り考えてくださっていて、ここに書いてあるだけではないと思うので、「例えば」というのを書いておいて、実際のこども計画を見ると分かると思う。こどもの目線でこう書かれていると、これだけだと思いかねない。「例えば」と書いたうえで、最後にだからもっと皆さんの意見を教えて欲しいという流れにするといいのではないかと。

事務局：「例えば」と入れて、これが例えであることが伝われば良いということか。

委員：これがごく一部であり、意見を言ってもらえたら、変えてもらえるということが伝わると思う。

会長：他にはいかがか。

副会長：学校職の立場として来ているが、学校の先生たちが、今これが大事とされていて、町では皆さんが検討して、このようなものを作って、こういうことを目指しているということを知っているということがとても大事だと思う。今自分は教頭の立場だが、担任をしていた時に、町でこのような計画を作っていることを全然知らず、教育委員会に行って初めて知った。先生方も学習指導要領の内容でこどもたちの育ちに関してやっているが、町として考えていることや、国としてこのよ

うな流れがあり、町が意見を集めてこのようなものを作っている、こんな思いがあるということ、先生たちの過重負担にならずに、教育委員会とも連携して、先生たちにも分かってもらえるといいと思う。教育委員会から校長会でアナウンスして、各学校に降ろすという形になると思うが、自分が学校の立場でやることではあるが、周知ということが大事だと思う。

事務局：先生については町でも考えている。学校の先生を通じて子どもたちに見てもらうのが1番理想的であるが、先生方がやはり忙しいところがある。その辺りも教育部局と話し合っ、先生方の負担にならない程度にできるように考えてはいるが、進め方をどうしたらいいのかというところが課題ではある。

副会長：各種団体が学校に来て、チラシなどを先生方に配ったりしているが、なかなか業務時間外に参加するのは難しいところがある。軽はずみには言えないが、例えば夏休みの教員研修などで、子育て・健康課や教育指導課と調整して行うのが理想ではある。

事務局：理想とするところである。それをやるには校長会や教育委員会の中で、このようなことを考えているという話をしながら、調整していかなければいけないと思う。

会 長：他にご意見、ご質問はあるか。無いようなので進行する。

(3) その他

会 長：議題(3)その他について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局：(今後の流れ、次年度以降の会議開催について説明)

会 長：議事を終了し、進行を事務局にお返しする。

4. 閉会

事務局：会長に感謝する。本日用意させていただいた案件は以上になる。昨年度から引き続き、一部の方は今年度から急遽入っていただき、こども計画の策定ということで、多大なるご協力をいただき、感謝する。庁内会議を経て、正式に計画策定の運びとなる。4月からはこのこども計画に則り、向こう5年間のこども施策について展開していくので、引き続きご協力をお願いしたい。このメンバーでお集まりいただくのもこれが最後となるため、感謝する。

それでは、これをもって令和6年度第4回二宮町子ども・子育て会議を終了させていただきます。